**台湾工作機械情報**

**2024年10月15日**

* **貿易部、メキシコ市場のギルドに参加**

**台湾のスマート製造技術が輝く2024 EXPOMAQ**

　台湾企業のメキシコ市場攻略を支援するため、経済部国際貿易署は、多角的なマーケティング手段を通じて、台湾企業をメキシコ工作機械ショー（EXPOMAQ 2024）に参加させた。精密機械研究開発センター主催で、台湾工作機械・パーツ工業協会と台湾流体コンポーネント協会が共同で展示会に参加するグループを組織、展示面積は400平方メートルにも及んだ。各分野の最新技術と製品を展示し、スマート製造と精密機械における台湾の主導的地位をアピールした。

　展示会初日には台湾メーカー5社、鍵和、申琦、油順、台灣氣立、武漢機械を招いて合同記者会見を開き、上下流関連アプリケーションのアライアンスによる共同販売、現地オペレーターとの現地サプライチェーンを構築することで、台湾とメキシコ市場の結びつきを促進し、台湾製造業の革新的な技術と卓越した強みを紹介した。

**台湾・メキシ提携の新たな一歩**

　展示会初日の記者会見は、メキシコ代表の許博翔秘書官が式辞を述べ、次のようにコメントした。「メキシコは昨年、工作機械と関連部品を約80億米ドル輸入し、工作機械とパーツの純輸入国となった。メキシコの自動車工場が集中しているため、機械製品に対する硬直的な需要が強く、台湾企業は今後も状況を注視していきたい。」台湾貿易センターや地元のメキシコ協会も会議に招待され、台湾製造業の輝かしい業績を目の当たりにした。来賓は台湾製造業の革新的な強さと市場の潜在力を高く評価し、将来の協力に向けた強固な基盤を築くことができた。

　記者会見には、台湾製造業の最先端技術を代表する5社が招かれ、自社の製品、それぞれ油順精密の油圧ロータリーアクチュエータと流体粘性ダンパー、鍵和機械の高精度研削盤、申琦工業のSHF精密温熱鍛造プレス、台灣氣立のHDEシリーズの機械式グリッパー、武漢機械の油圧カートリッジバルブと小型油圧パワーユニットを紹介した。

**未来を見据えて協力関係を深化**

　記者会見は順調に進行され、台湾製造業の革新的精神と技術力を示しただけでなく、台湾とメキシコ市場の協力関係の新たな章を開くことができた。貿易省はこのイベントを通じて、スマート製造と革新的産業の持続可能な発展を共同で促進するため、今後さらに多くの産業分野で深い協力関係が築かれることを期待している。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2024，NO.161 頁57）

* **AIスマートファクトリー・フォーラム**

**製造業におけるAIを徹底分析し、生産効率のピークを生み出す**

　円安、地政学的リスク、貿易摩擦といった目下の危機を前に、AIは製造業の競争力を進化させ、生産価値を向上させる転機となるだろう。TechOrangeと台湾工作機械パーツ工業会（TMBA）は7月19日、【2024 AIスマートファクトリー】を共催した。TMBAを代表して陳伯佳理事長が招かれ、「工作機械エコシステムと手を結んで産業競争力を促進」というテーマで講演し、工作機械エコシステムの発展青写真とビジョンについて、業界の現状とTMBAの2軸転換推進戦略の観点から詳しく分析した。

　台中市政府デジタルガバナンス局の林谷隆局長が招かれ式辞を述べた。また経済部産業発展署の林德生秘書主任が「AI技術によるスマートマシン進化への道」について見識を示した。このことは、政府部門がデジタル開発を重要視し、支援していることを示している。講演者はまた、SAS Taiwan、伊斯酷軟體科技、東捷科技與台灣帆軟、NVIDIAなどのAI専門家を招いた。一同はAIを利用した新しいモードをマスターすることで、生産効率のピークを作り出し、黄金地溝帯の企業の市場競争力を向上させることができる。

　TechOrangeの戴季全社長は冒頭のスピーチで、「AI競争、人手不足、新たなグローバリゼーションが牽引する製造業の動向」と題して、冷戦2.0、人口減少とAI軍備競争という3つの壮大な勢力が世界中で収束するなか、「情報収集、積極的参加、テクノロジーの新しい波を勇敢に受け入れる」ことが、すべての労働者のマインドセットになると強調した。

**AI技術で工作機械業界をアップグレードするためのカギとなる思考**

　TMBAの陳伯佳会長は「工作機械のエコシステムと手を結び産業競争力を促進」というテーマのスピーチで、「台中工作機械コロニーのビジネスモデルを変えるべきだ」と述べた。工作機械業界にとって、デジタル変革プロセスで最も重要なのは「知識管理」だ。優れた知識管理の基盤があってこそ、新技術を導入しながら新たな付加価値や業務形態を生み出すことができるからだ。

　AIは知識管理を最適化する役割となる。知識導入を最適化し、リソースを統合、意思決定を改善することで、ロジスティクスと情報のギャップを減らす。デジタルトランスフォーメーションがまだ明確でないと感じているメーカーに対して、当協会は情報格差を縮めるための支援も積極的に行い、相互利益と繁栄のために、ツールとマシンのエコシステムを構築し続ける。より多くの工作機械メーカーがデジタルトランスフォーメーションの門をくぐり、「エコシステム」思考で技術協力を強化することを期待する。我々は、より付加価値の高い製品を開発し、経済規模と市場シェアを拡大するために、業界における技術的進歩を共同で推進していきたい。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2024，NO.162 頁58）

* **台湾スマート機械価値転換フォーラム　AIが導く業界の未来**

　経済部産業技術の指導の下、精密機械研究開発センターが主催する「AI実践のスマート機械価値転換と国際協力フォーラム」が8月16日、台湾台中市の裕元花園ホテルで開催された。このフォーラムには、国内外からスマート機械と人工知能技術の応用に関するトップレベルの専門家、業界リーダー、学識経験者が招かれ、スマート機械の価値転換に関する最先端の課題を探った。

　李傑教授がスマート製造における産業AIの応用について講演を行った。彼は過去に、日本の大手工作機械メーカーであるMAZAKの健康予測システムの開発や、トヨタ自動車のダウンタイムゼロ機能実現に向けた予知保全技術の開発を支援し、世界中の先端企業でAI技術の導入を成功させた長年の経験をもつ。李傑教授はテスラを例に、AI技術を生産効率の向上と製造工程の最適化にどのように応用できるかを惜しみなく披露し、具体的な事例を示した。

　精密機械研究開発センターの技術部長蕭仁忠博士は、TSM－AIにおける国際協力の構造と詳細について分析し、企業の円滑なビジネス変革をサポートしている。博士は次のように語った。「スマート機械産業への転換時には、話題性の高いAIやDXに加え、プロジェクトの緑化（GX）部分を実施することが推奨される。様々な資源を統合的に活用することで、二酸化炭素排出量とカーボンフットプリントを削減すると同時に生産性と効率を向上させ、グリーン変革の最良な目的を実現することができる。

　学者やAI活用に成功した企業経営者による情報提供に加え、フォーラムのもうひとつのハイライトとなったのは、「AIスマート・エンジンの始動、産業価値の変革：コンセプトから実現まで」と題されたパネルディスカッションだった。セミナーは、李傑教授、達佛羅の張錦鋒会長、工作機械工業会理事長兼永進機械工業の陳伯佳氏が主催した。対話と交流を通じて、AI技術がスマート機械の革新的な開発をいかに実現するかが討論され、技術革新や協力の機会を作る契機ともなった。このフォーラムを通じて、研究開発から実用化まで、台湾産業を高度化するためのAI価値転換が解き放たれることを期待している。

（資料出典：工作機械とパーツ雑誌，2024，NO.163 頁67）

* **2024年台湾工作機械上半期生産・販売レビューと年間動向**

　2024年上半期の世界経済は緩やかに回復しているが、伝統製造業は低迷を続けている。中央銀行間の金融政策の相違の結果、米国と新興市場経済の景気は現在徐々に回復している。米連邦準備制度理事会は最近、「インフレと景気減速のリスクは均衡している」と公言、雇用市場はわずかに減速している。9月利下げの可能性も高まると予想されるが、欧州の先進国経済は依然として弱く、米国の成長ぶりが目立つ。 地政学的対立の影響が続いていることと相まって、各国の発展にはまだ乖離があることがわかる。幸い、主要国のインフレ率は改善しており、世界経済の見通しは下半期安定すると予想される。今後も市場の変化を追っていくつもりだ。

　財務省税関総署情報処理室が提供する全国各税関の輸出申告に関する情報の台湾工作機械・パーツ工業会の統計によると、2024年1-6月の台湾工作機械輸出総額は約10.75億米ドルで、前年比15.5％減少した。 金属切削工作機械の輸出額は17.4％減の9.02億米ドル、金属成形工作機械の輸出額は3.6％減の1.73億米ドルであった。前月と比較すると、工作機械の輸出額は2024年5月と比較して7.8％増加した。 金属切削工作機械の輸出は11％増加したが、金属成形工作機械の輸出は9.9％減少した。

2024年1月から6月までの金属切削工作機械の主な輸出品目はマシニングセンターで、その輸出額は3億1900万米ドル、前年同期比28.5％減少した。第2位は旋盤で、輸出額は前年同期比13.5％減の約2億7,100万米ドルだった。金属成形機の輸出では、鍛造機とスタンピングマシンの輸出額は1億3700万米ドルで、前年同期比2.4％減少した。

　輸出国（地域）の分析によると、2024年1月から6月までの台湾工作機械の輸出国（地域）トップ10は、中国（香港を含む）、米国、トルコ、インド、ベトナム、ドイツ、オランダ、韓国、日本、タイだった。そのうち、台湾の中国大陸（香港を含む）向け工作機械輸出は3億1700万米ドルで、前年比0.2％減、輸出全体の29.5％を占めた。米国市場は輸出額で第2位となり、輸出額は1億6,300万米ドルで前年同期比13.5％減、15.2％シェア。トルコの輸出額は前年同期比25.8％減の1億600万米ドルで第3位、輸出総額の9.9％を占めた。

　最近、中東情勢が再び緊迫化し、紅海危機がコンテナ海運業界に影響を与えている。加えて、北米での労働争議は、海運業界における新たな混雑の危機を再び引き起こすかもしれない。一方、今年第２シーズンの米国経済は前シーズンに比べ若干の改善が見られ、インフレ率の継続的な低下と相まって、経済に対するいくつかのリスクは徐々に減少していると推察される。その結果、米連邦準備制度理事会による9月の利下げはさらに強固なものになると予想されている。 ほとんどの調査機関は、この利下げが経済成長を刺激し、生産性を向上させ、雇用を創出するのに役立つと考えている。

（資料出典：本研究にて作成）

* **最近のニュース**

**4大協会から65の出展者のエネルギーが集結**

**ベトナムにおける工作機械のスマートなビジネスチャンスに挑む**

【2024-07-04 工商時報】

　ベトナムのグリーン・スマート製造業のビジネスチャンスをつかむため、経済省国際貿易局主催による外国貿易協会が実施する「スマート機械海外促進プログラム」が実施された。ベトナム工作機械見本市で「グリーン・スマート・マニュファクチャリング」の記者会見が開かれ、台湾企業5社がスマート・マニュファクチャリングと省エネ・省カーボン製品のソリューションを紹介した。

　台湾駐ホーチミン事務所経済課の張文忠氏は「世界銀行によると、ベトナムは新しく世界の工場という役割を担って、今年泥沼から抜け出し大きな回復傾向にある。ベトナムのGDP成長率は2024年には5.5％に達する見込みだ。このほか、サプライチェーンのシフトがもたらす製造業の巨大な需要がある。ベトナム機械工業会は、2030年までに機械市場の需要が約3100億米ドルに達し、その70％以上を輸入に頼らざるを得なくなると予測している。 欧米の顧客が求める生産能力と規格を満たすため、またベトナムにおける機械の老朽化に関する規制を遵守するため、さらにはますます顕著になる電力不足の問題に対処するため、現地メーカーはすでに設備の更新時期に来ている。このことは、今年1月から5月にかけて、台湾からベトナムへの工作機械の輸出が毎年18.2％増加し、ベトナムが我が国工作機械第5位の輸出国に躍進したことからもわかる。我が国の高品質な製品でベトナム産業の発展を支援し、台湾とベトナム双方にWin-Winの状況を作り出したい。」

　このビジネスチャンスを活かし、台湾対外貿易発展局は、工作機械工業会、ベアリング協会と共に台湾パビリオンを開催し、65社以上の台湾企業が展示会に参加した。

**機械輸出販売、最低水準から回復の見込み**

【2024-07-11 経済日報】

　台湾機械工業会は昨日、6月の機械設備の輸出額は3.1％の月間増加、10.6％の年間増加に達したことを発表した。これは台湾ドルで16.3％の年間増加となる。 6月の輸出はプラスに転じ前年同月比で増加した。これは台湾機械産業が相次ぐマイナス成長から脱却し、徐々に勢いを取り戻しつつあることを示している。

　機械工業会の統計では、上半期機械輸出額トップ３は電子機器が16.9％シェア、9.0％の年間増加、検査・測定装置は全体の16.5％を占め、年率5.2％の増加、工作機械は7.6％シェア、年率15.5％の減少となった。

機械輸出国トップ3は、米国（24.1％）、中国本土（23.8％）、日本（7.4％）であった。

　6月の電子機器輸出は30.4％増と2カ月連続の大幅増となった。これは、世界の半導体関連産業とAIアプリケーションのニーズが過熱していることの表れといえる。先進的な製造プロセスと生産能力の拡大という国際的な流れに後押しされ、AIのビジネスチャンス、高性能コンピュータ関連と電子機器が近い将来、機械輸出の重要な原動力となるだろう。

　6月の工作機械輸出額は1.93億ドルで、年間13％減少、上半期の輸出額も15.5％減少した。地政学的紛争と国際為替レートの影響により、台湾工作機械輸出は依然として深刻な課題に直面している。

**苦境に立つ国内機械産業　業者同盟を組んでチームとして戦う**

【2024-07-19 連合報】

　「AIを活用した機械産業向けアプリケーション・サービス・シェアリング交流会」が本日、台中で開催され、台湾の金属機械・電機関連業界団体や中小企業の会長ら100以上の企業が参加した。この提携を企画した台大機械工学科の覺文郁終身特別教授は、「国内機械産業は困難な状況にある。台大機械工学科の主力研究チームを通じて、“呼び水”を使って情報を共有、産官学と研究機関を結集して提携を結び、チームで戦おう」と述べた。

　台湾工作機械とパーツ工業同業協会理事長の陳伯佳氏は次のように語った。「工作機械を含む国内機械産業はコロナ禍後、困難に直面している。 昨年はコロナによる封鎖も緩和したが、今年はウクライナ・ロシア戦争や地政学的要因もあり期待通りの状況ではない。 機械産業は世界各地で孤軍奮闘しており、国際的な大規模工場に挑むだけのエネルギーがない。そこで産官学が連携しプラットフォームを共有することで『チームとして』海外の大企業に対抗することができると考える。」

**台中AI工作機械＆オートメーションショーが10月に開催**

【2024-07-22 工商時報】

工商時報と度量衡協会が主催する「2024台中AI工作機械・オートメーションショー」が10月4日から7日まで台中国際展覧館で開催される。

　工作機械業界はここ数年、自転車業界の記録的な在庫高、ロシア・ウクライナ戦争やイスラエル・ハルビニア戦争などの地政学的要因、世界的な高インフレや米国の高金利に端を発した投資・消費の停滞、円相場の暴落など、多くのブラックスワンに悩まされ、相当なダメージを受けた。しかし、最近発表された米製造業購買担当者景気指数PMIは51.7と、5月の51.3から3ヵ月ぶりの高水準に上昇するなど、市場は春の兆しを見せている。台湾の中央経済研究所は6月上旬、5月の製造業PMIが4月の49.4から55.4に上昇したと発表、製造業の景気も良くなり始めている。加えて、前の2年間は自転車業界の在庫が過去最高を記録し、消化に一年以上を費やした後、最近ヨーロッパやアメリカ市場が注文を追加し始め、下半期は良い見通しとなりそうだ。このほか、最近のインフレデータが緩和傾向にあることから、米国が年内に利下げを実施する可能性が高まっている。こうした兆候はすべて、工作機械の景気が徐々にプラス方向に向かっていることを示している。

　「台中AI工作機械＆オートメーションショー」のテーマは、ハイエンドの工作機器、レーザー板金、インテリジェント製造、ロボット、AI人工知能、低炭素機械サプライチェーン、ギアとトランスミッション技術、省エネ設備、および様々な産業機械とそのハードウェアコンポーネント、切削工具などで、展示品も充実しており、ワンストップで購入することも可能だ。

**工作機械輸出の後退が確実視される**

【2024-07-29 工商時報】

台湾工作機械上半期の輸出は、政府のロシアへの輸出禁止、円安など様々な要因で下落した。加えて、中華人民共和国商務部によるECFA早期受入リスト停止の影響も徐々に発酵しつつある。業界では、下半期輸出の潮流を変えることは困難であり、年間輸出額と業界の景気後退は必至で、コロナ禍後2年連続のマイナス成長を生み出すことになりそうだ。

　台湾機械工業会による台湾工作機械部品協会の統計では、上半期工作機械の輸出額は7.6％シェア、15.5％の年間減少で下半期も改善の兆しはなく、過去5年間で最悪の恐怖の年間輸出額となりそうだ。

　台湾機械工業会秘書長の許文通氏は次のようにコメントしている。「台湾機械設備の上半期輸出額は、米ドルベースでわずか1.3％の減少にとどまった。米国は下半期に利下げに踏み切ると予想されている。さらに、半導体産業はAI問題で過熱しており、繊維産業と履物産業は大規模な国際競争により需要が増加している。苦戦を強いられている工作機械を除き、他の市場が徐々に上向きつつあることから、機械工業会は当分の間、今年の見通しを修正しない予定だ。」

　工作機械工業会によれば、中国によるECFA早期受入注文の関税ゼロ優遇措置取り消しに先立ち、ほとんどの会員企業は変動する経済・貿易情勢の影響を軽減するため、事業の多角化を進めてきた。しかしながら中小企業の多くは、中国のECFA特恵関税取り消しの影響が比較的大きい。

**円高、機械設備輸出10％増へ**

【2024-08-04 経済日報】

　台湾機械設備の上半期累計輸出額は141億7,600万米ドルで、前年同期比1.3％減少した。しかし、輸出は6月にプラスに転じ前年同月比で伸びている。台湾機械工業会の荘大立会長は、「円高と米国の金利引き下げが下半期にプラスに働き、輸出はプラス軌道に、年間5％から10％の成長が見込まれる」と述べた。

　「6月の電子機器輸出は30.4％増と2カ月連続の大幅増となった。これは世界の半導体関連産業とAI応用需要が引き続き熱いことの表れだ。先端製造工程と生産能力を拡大する国際的な流れに後押しされて、近い将来、AIビジネスチャンス、高効率のコンピューティング関連と電子機器が機械輸出の重要な原動力になると予想できる。」

　工作機械に関しては、地政学的対立や国際為替レートの影響により、輸出は依然として厳しい状況に直面している。 統計によると、6月の工作機械輸出額は前年同期比13.0％減少、上半期の輸出額は前年同期比15.5％減少した。

　荘氏は、「一般業界の景気は回復しているが、工作機械の反応は遅れている。特にコロナ発生以降の大幅な円安で、顧客が日本製の機器を購入するようになった。ところが最近は円高になりつつあり、130〜140円になれば顧客の態度も逆転するかもしれない。」とコメント。

**7月機械輸出は前年比6.8％減 機械工業会：年末から徐々に回復**

【2024-08-09 自由時報】

　機械工業会が本日、7月1日から7カ月間の輸出入統計を発表、7月の機械輸出は前年同月比6.8％減となった。機械工業会によれば、機械部門全体は微減しているものの、年末のピークシーズンから徐々に回復に向かうという。

　統計によると、7月の機械輸出は前年同月比6.8％減少、新台湾ドルベースで2.3％減少、1月から7月までの機械輸出額は2.2％減少した。

　機械工業会の統計では、今年1～7月の機械輸出品目のトップ3は、電子機器、検査・測定機器、工作機械だった。そのうち、電子機器は年率6.9％、検査-測定装置は年率2.1％増加、工作機械は年率17.2％減少した。注目すべきは、7月の工作機械輸出額が年率26.2％減となったことで、機械工業会は地政学的な対立や国際為替の影響がまだ解消されていないことを指摘、日本の通貨は最近回復しているものの、輸出は大きな動きを見せていない。世界的に不確実な要因がいまだ存在している。

　統計速報によれば、今年上半期、電子機械の輸出トップ3は、電子機器28.06億ドル、検査-計測機器27.44億ドル、工作機械12.54億ドルで、輸出トップ国は米国、中国、日本だった。

**機械工業会「AIで工作機械に付加価値を」**

【2024-08-16 経済日報】

　国家発展計画は、不利な立場にある工作機械産業の生産額を1.5倍に増加させることを宣言、台湾機械工業会は先日、政府に6つの主要な提案を提出した。

機械工業会の提言は以下の通り：１、技術・製品の研究開発革新の深化を支援。２、高性能な産学研究協力ネットワークの構築。３、産業人材の採用と育成の支援、４、国産機械設備の導入に対する補助金の提供。５、産業界の国際マーケティング強化の支援。６，運営・財政支援策の強化。

　政府は工作機械業界の立て直しを図る計画だ。台湾機械工業会の莊大立理事長は、「ハイレベルの工作機械は超円安に直面し、かつての価格差による競争優位性がなくなった。中低級品は中国や韓国との低価格競争による「ダンピング」で経営環境は厳しい。」彼は、生産エネルギー効率を改善するためにAI対応のインテリジェントデバイスを使用することは、工作機械業界にとって重要なビジネスチャンスであり、ニッチになると考えている。

**台湾工作機械サプライチェーン...製造業の母IT牽引役に変貌**

【2024-08-28 経済日報】

製造業は技術工場へと変貌する！台湾インテリジェント・マニュファクチャリング・アライアンス会長の柯拔希氏は次のようにコメントしている。「台湾の工作機械サプライチェーンは近年積極的に変貌を遂げており、今後の半導体、AI、ロボットの発展にも欠かすことはできないだろう。また、次世代半導体プロセスへの橋渡し役としても重要な役割を果たし、製造業の母からテクノロジー産業の牽引役へと変貌を遂げることが期待されている。」

　また、台湾工作機械パーツ工業協会が今年も会員企業向けにイベントを開催し、世界の製造業のデジタル転換とグリーン転換の流れに対応するため、工作機械インテリジェンスチームを積極的に立ち上げ展覧会に参加した。

　台湾工作機械とパーツ工業協会理事長の陳伯佳氏は次のようにコメントしている。「このスマートチームは、『Smart 、Manufacturing、AI.、Realization及びTechnology」というコアバリューに基づいて、半導体業界に包括的なエコシステム・ソリューションを提供する。チームは高度な製造技術と人工知能を通じて、製造工程のインテリジェンス化と自動化をいかに実現するかということにフォーカスし、モノのインターネット（IoT）、ビッグデータ分析、クラウドコンピューティングなど、最新のデジタル製造技術も応用している。

**工作機械業界、新機械への入れ替えを奨励**

【2024-08-31 経済日報】

　炭素料金、炭素税の導入に関して、台湾工作機械とパーツ工業協会の陳伯佳会長は次のようにコメントしている。「政府はできるだけ早く配備し、国内機器の調達と新旧入れ替えをしたほうがよい。そして同協会が推進する省エネラベルを取り入れ、国内工作機械産業の発展を牽引し、ネット・ゼロ・カーボン・エミッションを実現すべきだ。」

工作機械業界の今後の景気に関して陳伯佳は率直にこう語った。「現在、工作機械業界は低迷しており、短期的には明るい兆しは見えない。米連邦準備制度理事会の利下げ発表や米大統領選の決着がいつになるかが重要な指標となり、先行きはより鮮明になると予想される。」

　世界的な気候変動の影響が強まるなか、持続可能な発展を目指す政府や企業にとって、炭素排出量ネットゼロは共通の目標となっている。製造業の要として、工作機械業界はかつてないプレッシャーに直面している。経済成長と環境保護のバランスを取らなければならない。

　このような背景から、工作機械研究所では2023年第4シーズンから、マシニングセンター、旋盤、研削盤、ボール盤、パンチングマシン、放電加工機の6つのカテゴリーについて、カーボンフットプリント「製品カテゴリールール」の策定を推進している。

　当協会は、委員会機構を通じて公正、公平かつオープンな方法で、信頼できるカーボンフットプリントの算定範囲とルールを確立し、国内の工作機械パーツ業界にカーボンフットプリント算定の業界標準を提供したいと考えている。

**機械工業会：AIと半導体の普及が装置輸出の伸びを押し上げる**

【2024-09-10 中央社】

　台湾機械工業会が本日午後、8月の機械輸出額が12.3％増、年率7.5％増になったと発表した。同工業会は、世界経済は徐々に回復、人工知能と半導体産業がまだ熱いため、台湾の設備輸出は成長を続けることができると分析している。

　工業会は、「政府が内需拡大によって経済成長のサイクルを加速させ産業再編を促進、新旧置き換えによって、台湾製造業の生産効率と省エネルギーを向上させると同時に、グリーン・トランスフォーメーションという世界的な潮流に合わせることになる」と提言している。

今年1～8月の機械輸出の累計額は、前年同期比で0.9％減少、新台湾ドルでは、前年同期比3.2％増加した。このうち、電子機器は16.8%シェア、前年同期比6.6%増、検査・測定機器は16.3%シェア、同3.4%増、工作機械は7.5%シェアで同16.3%減となった。

　機械工業会は、「台湾電子機器の輸出は成長を続け、8月工作機械の輸出額は7月に比べて増加したが、輸出はまだ圧力に直面している。為替レートや地政学的紛争やその他の要因は、工作機械の輸出発展に影響を与え続けている」と分析する。

**産業界と協力し国際的な人材発掘・育成　「日の沈まぬ経済国を」**

【2024-09-11 連合報】

　経済部、教育部、国家発展委員会は最近、工業総会、商業総会、電機・電子協会コンピューター協会、半導体協会、機械工業会、工作機械工業会など21の産業団体及び、NVIDIA、AMD、Microsoft、Infineon、台達電、新應材など国内外の企業11社を招聘し、少子化や産業人材不足の課題に対応するため、人材不足に対処するための短期的・中長期的な解決策を計画した。

　国家発展委員会は、2028年までに労働市場は約35万人の人力不足が生じ、2030年までに48万人に拡大すると予測している。台湾産業の競争力に影響を与えないよう、政府と産業界が協力して人材を育成していきたい。

　産業発展における人材不足に対処するための第一段階として、経済部と教育部が協力し、企業が台湾で国際的な人材を確保するのを支援するため、産業別の精密マッチングを計画する。また、留学生に職場を見学させ、企業のニーズを満たす専門的なスキルをさらに訓練することで、台湾に居残る国際的人材を拡大したい。

　中長期計画2＋4は、東南アジア、特にフィリピン、マレーシア、タイからの優秀な留学生のためにカスタマイズされたコースで、留学生が卒業後も産業界に貢献できるよう、専門的な知識と技能を育成するプログラムだ。経済部は、台湾が「日の沈まぬ経済国」になるのを支援するため、毎年2万5000人の国際的な人材を育成できるよう望んでいる。

**AIとロボット工学にフォーカス　貿易協会と工作機械工業会がシカゴで台湾メーカーの受注をリード**

【2024-09-12 経済日報】

　世界三大工作機械見本市の一つであるシカゴ工作機械見本市が米国で盛大に開催され、貿易協会が実施した視察団は今年、AIとロボットをテーマに11社のメーカーを招待した。

　貿易協会は次のようにコメントしている。「出展者は、来場者のほとんどがこの展示会の潜在的なバイヤーであると確信している。顧客はアメリカ、メキシコ、カナダ、韓国、中東、トルコなどから来ていて、展覧期間の最初の3日間は、スウェーデンのASSA ABLOYグループやアメリカのAppleといった大手バイヤーから引き合いを受けたベンダーもあった。」

　また、今回はデジタル製造技術に焦点を当て、AIや自律型ロボットなどを深く掘り下げている。今回初めて、Google、Microsoft、AWSのクラウド大手3社は、ロボティクスとオートメーションの分野で大規模な展示を行い、スマート・アプリケーションとAIが従来の製造業の生産枠組みを突破し、徐々に現場に導入されつつあることを示した。

　工作機械工業会曰く、今回、国内メーカーはフライス加工、旋盤加工、研削加工、放電加工、ワイヤーカット加工などを組み合わせた製品を中心に展示し、ワンストップソリューションで顧客のニーズに応えた。

　特に今年は、台湾メーカーがインテリジェント化、デジタルツイン、グリーン省エネ技術を多用しており、国内メーカーの二軸変換能力が徐々に強化されていることがわかる。

**機械工業会「徐々に拡大する国際提携」**

【2024-09-20 経済日報】

　台湾機械工業会の莊大立会長が昨日次のようにコメントした。「米国の利下げ、円高で、台湾機械と工作業界は暗い話題を振り払いたい。半導体やAIロボットとともに飛翔し、テクノロジー・サプライチェーンに変身した後、徐々に国際的な大手企業と提携・協力関係を結び、独自のサプライチェーンを確立していくことが期待されている。」

　昨日、台湾機械工業会は国家科学委員会の吳誠文委員長を訪ね、政府が科学技術に配分する予算が、AIや半導体などの産業に加え、機械産業が深く発展するようバランスよく配分されることを望むコメントした。

　莊大立氏は、国際的な保護主義が勃発している。ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ハルビニア戦争は国際社会に大きな影響を与え、世界中に保護主義の新たな波を生み出しただけでなく、サプライチェーンの再編成やショートチェーン化や強靭化の流れを加速させていると指摘した。

　機械工業会は政府に対し、機械工業が台湾に根付き、台湾の国家を守る重要な柱となるよう、国家戦略的な考え方を採用するよう求めている。また、自国のサプライチェーンを構築し、国防の強靭性を高め、国際競争力を強化するため、機械産業向けの主要部品や材料技術（レーザー、産業用センサーなど）の開発にも引き続き投資していきたい。

**工業、製造業の生産８月は二桁の伸びを記録　六か月連続黒字**

【2024-09-26 経済日報】

　経済部統計局が昨日発表した8月の工業生産指数は103.27、年率13.42％増、製造業生産指数は102.88、年率14.07％増と2022年4月以来の高水準を記録、両指数とも6ヵ月連続の黒字となった。

　経済部は当初、8月の製造業生産指数の年間成長率は4.2％から8.6％の間に落ち込むと予測していたが、実際の結果は年間成長率14.07％となり、予想を上回った。 黄偉傑氏は、主な理由として、昨年の予測が比較的保守的でベースが高かったこと、サーバーや半導体の需要が引き続き伸びていることを指摘した。

　業界別にみると、8月の電子部品業界の生産指数は107.67で、前年同期比22.24％増と過去最高を記録した。なかでも集積回路産業は、ハイパフォーマンスコンピューティングやAIアプリケーションの旺盛な需要の恩恵を受け、指数を117.57まで押し上げ、前年同期比28％増と過去最高を更新、高い成長性を示した。

　伝統産業は、8月機械設備産業が3.89％の年間増加、5年連続のプラス成長を維持している。黃偉傑氏は、「伝統的な工作機械はまだ勢いを回復していないが、ハイテク産業の投資の勢いは明らかで、主に半導体の恩恵を受け、川下設備投資の成長につながった」と述べた。